

敬老の日

全国有料老人ホーム協会は、毎年「敬老の日」にちなんでシルバー川柳を募集していますが、その中の入選作品を借用しながら「敬老の日」について考えてみようと思います。

お年寄り 品格落ちて 敬えぬ

一口にお年寄りといっても、いろんな方がいますからね。この川柳は、きっと若い方が作った川柳でしょうが、なかなか辛口ですね。

100歳を超える方が、とうとう全国で5万人を超えました。皆さんお元気で長生きしていることは喜ばしいことですが、一方では、医療制度や年金制度が破綻しそうになっており、その原因の一つはお年寄りが増えているということです。我々は、お年寄りの長寿をお祝いしているだけでは済まない現実に向き合っています。

軽老に ならなきゃ良いが 高齢化

いろんなことが、心配になりますよね。

さて、今年の「敬老の日」は9月17日でした。元々は、9月15日が「敬老の日」だったのですが、2003年以降、ハッピーマンデー制度の実施によって9月の第3月曜日となっています。

この「敬老の日」はいつからスタートしたのか、色々調べてみましたら、一説によると、終戦直後の1947年に兵庫県野間谷村（現多可町）の村長が、「老人を大切にし、年寄りの知恵を借りて村作りをしよう」と、農閑期で気候も良い9月中旬の15日を「としよりの日」と定めたというのが始まりで、それが全国に広がり、1964年には名称も「としよりの日」から「敬老の日」に変わり今日に至っている、とのこと。

なお、9月15日が「敬老の日」となった事については、聖徳太子が大阪に四天王寺を建てた時、併せて、敬田院、悲田院、施薬院、療病院の4院を設置したといわれていますが、その内の悲田院が出来たのが9月15日だった事からこの日が選ばれたという説もあります。というのは、この悲田院というのは、身寄りの無い老人や子ども達を救うために設けられた施設で、我が国における

老人ホームの魁といっても良いでしょう。

国民の祝日に関する法律では、「敬老の日」は「多年にわたり社会につくしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う」日とされているのですが、そもそも老人というのは、一体何歳からいうのでしょうか。

二昔くらい前なら、当然のように60歳からという答えが返ってきた事でしょう。各地に伝わる「姥捨て山」伝説では、60歳を超えた老人は山に捨てられたというのですから、恐ろしいことです。

現在では、統計上も65歳以上が高齢者となっています。しかし、人生80年時代を迎えた今日、感覚的には70歳からと考えている人が多いようです(平成18年高齢者白書から)。

新聞に 老女と載って 抗議文

実際、びっくりする位元気なお年寄りが多いですからね。時間とお金に余裕があるのは、現役の若者世代よりお年寄り達の方かも知れません。だから、若者達からは、お年寄りを大事にするのも良いけれど、国は現役世代にもっと予算をつけて欲しいという声が出るのも当然です。もっとも、

挨拶を しながらだれか 考える

というのは他人事ではありません。今や、認知症患者は300万人を数え、65歳以上の10人に1人は認知症という状況になっていますから、明日は我が身と覚悟しています。ですから、

そろそろと 心の準備を しておこう

という心境にもなろうというものです。勿論、そんな事は「いうは安く、行うは難し」なのですが……。

お迎えは どこから来るのと 孫が聞く

同じ孫でも、3歳くらいの孫から聞かれたのならまだ可愛げがありますが、30歳の孫から同じ事を聞かれたら、何やらぞっとしますね。

(塾頭 吉田 洋一)